

第8回 地域の安全・安心講座 地域防災全般的事項

第8回講座から地域防災について説明致します。今回は、先ず、地域防災全般的事項について説明します。皆さん準備もしておられるかもしれませんが、非常持出品についても説明します。

第八回講座の内容

第二部:地域防災

- 1 地域防災に関する説明項目全般
- 2 地域防災の概念等
- 3 首都直下地震の切迫性
- 4 地域防災の重要性
- 5 非常持出品の準備について



地域防災において説明する内容は、スライドの通りです。今回が地域防災の概念や重要性です。次回以降「自助」そして「共助」、最後に国民として行政機関等に如何に協力し連携するかを考えることとします。

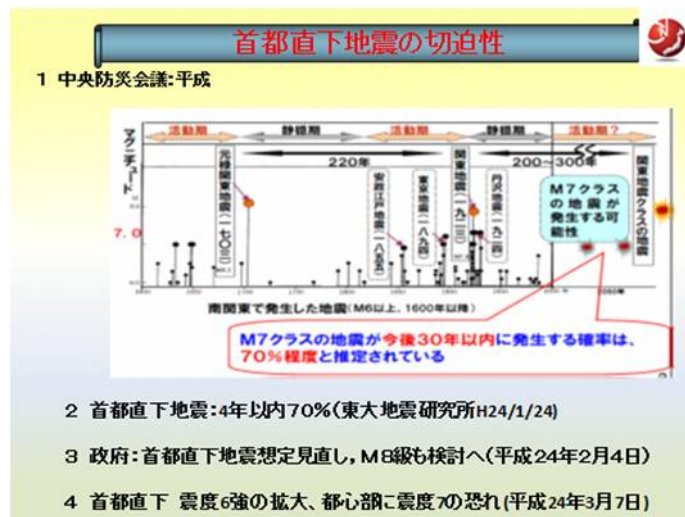
地域防災説明項目

- 1 地域防災の概念・重要性
- 2 自助
 - (1)非常持出品の準備
 - (2)避難
 - (3)帰宅困難時対策
 - (4)状況別対応
 - (5)救急処置について
 - (6)家庭の防災対策
- 3 共助
 - (1)自主防災組織等
 - (2)その他の防災ボランティア団体
 - (3)企業の防災における貢献
 - (4)共助の課題
- 4 公助との連携等

中央防災会議が首都直下地震の切迫性を公表しました。去る1月24日には、東京大学地震研究所が4年以内に70%の確率で発生すると発表し、国民の間でも関心が高ま

りつつあります。2月4日には、従来の首都直下地震の想定をも見直し、M8級をも検討すると発表しました。東日本大震災の教訓でもあります、想定し得る最大級の脅威に備えようとしております。

更に3月7日、文科省の研究グループは都や神奈川県の一部を中心とした強い揺れが広がる分布図を公表しました。6強の地域が拡大し、震度7の発生も指摘されています。



「地域防災」と云えば、誰しも「地域防災計画」を思いつかれるでしょうが、これは地方自治体が法律に基づき策定する防災の計画であり、どちらかという行政機関が行う災害対応の準備と実施の計画との側面があり、これから述べる地域防災とやや趣が異なる。

本講座で考慮している地域防災とは住民や地域共同体が行う防災対応と地方自治体等と住民の協働によるトータル的な防災という位置づけである。

1 地域防災の概念等

- (1) 地域防災計画は、災対法に基づき各地方自治体が防災のために策定する計画、行政機関の災害対応の為の計画という側面大
- (2) 地域防災:
 - 住民自身の**自助**
 - 地域共同体の**共助**
 - 及び住民による地方自治体等の**公助**との連携に係る地域コミュニティの総合的な防災対策
- (3) 地域防災力:上記のトータル

防災の基本は何かと問われれば、私は、スライドの通りであると答えるのを常として

いる。自助と共助と公助があり、それらが総合的・組織的に運用されてこそ、防災の実効性が高まる。3助の総合力が防災の基本である。

防災の基本

- **自助**: 自らの命は自ら守る
- **共助**: 我が街は自分達で守る
- **公助**: 公的機関により守る
(自衛隊、警察、消防、行政機関等)

3助の総合力

防災における自助共助公助の果たす役割や重要性等については、スライドにある通り7：2：1とされています。公助に期待するところ大ではあっても、現実的には被害の範囲の広さや多種多様性緊急性等を考慮すれば、公助には限界があると云わねばなりません。それをカバーするのが自助であり共助であり、そのことによって公助がより重要な正面に対してその力を集中できるのです。更に自助共助を強調し、それを国民運動とする必要があるでしょう。そういう観点からは今一というのが実感なのですが、皆さんは如何でしょうか？

防災における国民の役割

公助の限界を補い、公的機関の活動を容易にする

- 自助
- 共助
- 行政との協働
(コラボレーション)

→ **国民運動の展開**

自助:共助:公助 = 7:2:1

非常持出品については、色々と流布されていますが、その基本的な考え方はスライドの通りです。この基本的な考え方に基づいて夫々の特性に応じた準備をする必要がある

でしょう。

自助:非常持出品の準備等



1 考え方

避難生活を余儀なくされた場合に支援物資が届けられるまでの間(3日程度)の避難便利グッズ

- ・家族の人数分を準備
- ・避難に支障のない重量(男性15kg以下、女性10kg以下)
- ・保管場所:何時でも持ち出せる場所(冷暗所)
- ・全員に保管場所を周知徹底
- ・中身の定期的点検、機能点検、更新
- ・全てのライフラインが停止した場合を考慮
- ・家族構成に対応した準備を(高齢者、女性、乳幼児、ペット等)

非常持出品の一例を示しています。これは消防庁のHPに掲載されているものです。

二次持出品をも準備しておくべきだとの論もあります。自宅に所要の備蓄をしてことも必要でしょう。予想される被害を考慮してどの程度の物をどれくらい準備すべきかを考えてみましょう。チェックリストを作っておくとベターであると云われています。家族で何を準備すべきかを議論することも重要です。

非常持出品の一例



○民間業者が防災グッズを販売
詰め込み過ぎ?
絶対的な必需品と
持ち出した方が望ましいものとの
区分して自ら判断

○右図は
消防庁防災マニュアルから
チェックリストを活用すべし

○貴重品は非常持出に
常時入れておく?

○二次持出品の準備を推奨して
いる場合もあり。
自宅等の損壊等の可能性を考慮

